

# 第5学年 外国語科学習指導案

指導者

場所

5年2組教室

1. 日時 令和7年9月26日(金) 2時間目(9時35分～10時20分)
2. 学年・組 第5学年2組(25名)
3. 教材名 He can run fast. She can do kendama. (Here We Go! Unit4)

## 4. 教材観

本単元では、「Can you～?」の表現を用いて、相手のできることを尋ねたり、自分や友だちのできること・できないことについて伝え合ったりすることを目標としている。児童は、これまでに学習してきたスポーツや運動に関する表現に加え、新たに音楽に関する表現や、速い・高いといった状況を表す表現を学ぶ。これらの多様な表現を活用することで、自分や友だちの特徴をより豊かに表現できるようになり、学びの幅が広がる。

さらに、本単元では初めて三人称の表現に出会う。これまで一人称・二人称のみでやり取りしてきた児童にとって、三人称の導入は表現の幅を広げる重要な機会となる。活動としては、「I can～」を用いた「Who am I クイズ」に取り組むことで、児童は楽しみながら自然と「can」を用いた表現を繰り返して使い、英語で伝え合う楽しさを味わうことができる。また、第5時では「can/can't」と既習表現を組み合わせたスピーチに挑戦する。友だちの良さを聞き合い、互いを認め合う経験は、自己肯定感や学級の一体感を高める。これらの活動を通して、次単元「My hero is my brother.」につながる三人称表現の基礎を築くことができる。本教材は、互いを理解し合いながら自己表現を広げることを可能にする、単元のねらいにふさわしい教材である。

## 5. 児童観

学級の児童は、低学年の頃から年間の外国語活動を通して英語に親しみ、今年度からは「外国語」という教科として様々な語句や表現を学んでいる。自分の考えや気持ちを友だちと共有することに喜びを感じたり、教師や友だちとのやり取りの中で英語の意味を理解できることに楽しさを見出したりしている児童が多い。このため、身近な存在であるクラスの友だちを題材にした本単元のゴールは、児童にとって達成感の得やすいものとなっているだろう。知っている英語で相手に伝わったという経験は、学習への意欲をさらに高め、「もっと伝えたい」という気持ちを生み出すに違いない。

一方で、人前での発言に苦手意識のある児童や、自分の考えを表現することに消極的な児童も見られる。そのため、活動の設定においては、グループワークの形を取り入れ、仲間と支え合いながら安心して参加できる環境を整えることが求められる。このような協同的な活動は、言語活動への参加を促すだけでなく、学級全体の一体感を育てることもつながる。

## 6. 指導観

本単元では、児童が「can/can't」を用いて友だちを紹介する「Who am I クイズ」に取り組み、外国語で相手に伝える楽しさを味わうことを目標とする。単元を通して、児童は自分や友だちのできること・できないことを表現し合いながら、外国語で伝え合う経験を積み重ねていく。

教師はまず十分なインプットを与え、児童が安心して発言できる環境を整える。イラストやジェスチャー、板書を効果的に用いることで、児童が表現の意味を直感的に理解できるようにする。また、活動にはゲーム性を取り入れ、単元の中で繰り返し表現を使う機会を設けることで、児童が自然に表現を定着させられるように工夫する。発言の場面では、教師が児童一人ひとりの表現を肯定的に受け止め、小さな挑戦や工夫を積極的に評価していきたい。これにより、児童は外国語を使うことに自信をもち、次の活動にも意欲的に取り組むようになる。また、グループでの協同的な活動を通じて、仲間に支えられながら安心して挑戦できる雰囲気や単元全体で作ることを大切にする。発表活動は班単位で行い、事前に十分な練習時間を設けることで、発表が苦手な児童でも挑戦できるように配慮する。

さらに、教師は児童同士のやり取りを促し、互いの表現を聞き合う中で共感や理解を深める姿を支援する。単元を通して「英語で伝え合うことは楽しい」「友だちのことをもっと知りたい」という気持ちを育むことを大切にしながら、学習の成果を成功体験として積み重ねていきたい。最終的には、児童が外国語で自分や他者を紹介できる力を育むと同時に、仲間と協力して活動する喜びを感じられるように指導していく。

## 7. 単元の目標

- ・友だちや先生のことをよく知るために、できることをヒントにしたクイズを発表できる。
- ・クイズから、できることやできないことを聞き取ることができる。
- ・身近な人のできることやできないことを紹介することができる。

## 8. 評価規準

	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力	知識・技能
聞くこと	人当てクイズから、誰のことか考えながらできることやできないことを正しく聞き取ろうとしている。	人当てクイズから、誰のことか考えながら、できることやできないことを正しく聞き取っている。	Can you～? や He/She can/can't～などの表現や関連語句を理解している。【知識】人ができることやできないことについて聞き取る技能を身に付けている。【技能】
話すこと(発表)	友だちや先生のことをよく知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いてクイズを作り、発表しようとしている。	友だちや先生のことをよく知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いてクイズを作り、発表している。	Can you～? や He/She can/can't～などの表現や関連語句を理解している。【知識】友だちや先生ができることやできないことについて話す技能を身に付けている。【技能】

9. 指導計画(全6時間)

時間	主な活動内容
第1時	アニメーションを通じて、本単元のトピックや語彙に触れる。 動作や活動の言い方を知る。
第2時	できることをたずねる言い方を知り、尋ね合う。
第3時	友だちや先生のできることやできないことを伝える言い方を知る。
第4時	世界の友だちのできることやできないことを知る。
第5時	友だちができることやできないことを伝え合う。
第6時(本時)	友だちのできることやできないことを紹介する。

10. 本時(6/6)

(1) 本時の目標

「can/can't」を使って、友だちのできること・できないことを紹介し合い、伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

時間	主な活動	●指導上の留意点 ◎評価の観点
導入 5分	<p>1. 挨拶をする。</p> <p>「Good morning.」「How are you?」 ・教師と児童で天気、日時を日直に尋ねる。</p> <p>「What day is it today?」 「What's the date today?」 「How is the weather today?」</p> <p>○本時の Today's goal を確認する。 ・全員で Today's goal を読む。</p>	
復習 10分	<p>2. 全体で、既習表現や語彙を確認する。</p> <p>「Can you ~?」 — 「Yes, I can.」 「No, I can't.」</p> <p>・チャンツを言う(2回) →Picture Dictionary15</p>	<p>●既習表現を児童が復習し、自分の伝えたいことが言えるように支援する。また、児童が難しくしている箇所を重点的に確認、指導する。</p>

【Today's goal】「can/can't」を使って、友だちの新たな一面を知ろう!!

【既習表現】 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.

【既習語彙】 私、あなた、活動、スポーツ、身の回りのもの、人やものを説明する、速い、高いといった状況を伝える表現、できること、できないこと

<p>活動 25分</p>	<p>3. 「Who am I?」</p> <p>① 4人、または5人班をつくり、クイズになる人を1人決める。</p> <p>② 残りの3人、もしくは4人はクイズになる人に「Can you ~?」を使って質問をする。 →質問内容は Picture Dictionary15の表現の中から1つ選んで尋ねる。</p> <p>③ 答えを聞き取り、ワークシートの「自分が発表する文」に書く。 ※紹介者は尋ねられていない表現の中から1つ選び、「自分が発表する文」に書く。</p> <p>④発表の練習をする。</p> <p>⑤Let's クイズ!!</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>S1: I can ~ S2: I can ~ S3: I can't ~ S4: I can ~ Who am I?</p> </div> <p>※発表者は発表順ごとに番号の付いたプラカードを首から下げる。</p> <p>⑦Let's check the answer. →児童は答えだと思ふ友だちの番号を指で上げる。</p>	<p>◎人当てクイズから、誰のことか考えながらできることやできないことを正しく聞き取っている。</p> <p>◎友だちや先生のことをよく知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いてクイズを作り、発表している。 【思・判・表】</p> <p>●「自分が発表する文」は必ず書くことを伝える。</p> <p>●時間があれば、友だちが発表する文も書く。</p> <p>◎人当てクイズから、誰のことか考えながらできることやできないことを正しく聞き取ろうとしている。</p> <p>◎友だちや先生のことをよく知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いてクイズを作り、発表しようとしている。 【態度】</p> <p>●発表の際はジェスチャーを用いて、児童が理解する手助けとなるように助言する。 →いつも大切ポイント</p> <p>●発表の手助けとなるように、「I can/can't~」の表現を板書する。</p>
<p>振り 返り 5分</p>	<p>4. 振り返り</p> <p>5. 挨拶をする。 「That's all for today.」 「Thank you.」</p>	

11. 板書計画

Today's goal can/can'tを使って、友だちの新たな一面を知ろう！！

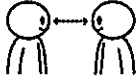


Friday, September, 26th sunny


Can you~?




















Yes, I can.

No, I can't.

【いつも大切ポイント】



 sing well	 cook	 swim	 run fast
 dance	 jump rope	 do kendama	 play soccer
 play basketball	 play baseball	 play volleyball	
 play table tennis	 play dodgeball	 play badminton	
 play the piano	 play the recorder	 play the guitar	
 draw pictures	 ride a unicycle		

12. 座席表

黒板
